

# 出稼ぎ経験を通して生じるメキシコ系先住民移民の意識の変化に関する研究 -オアハカ州、サン・フアン・ミステペックを事例として-

A study on changes to the consciousness of Mexican indigenous migrants occurring through migration experiences

時空間デザインプログラム  
13M43220 田中文滋 指導教員 土肥真人  
Environmental Design Program  
Bunji Tanaka, Adviser Masato Dohi

## ABSTRACT

The unique culture of a locality enhances people's sense of belonging to it. However, as people have more opportunities to contact with external cultures, cultural homogeneity increased all over the world. Regarding indigenous people in Mexico, they are increasingly influenced by capitalism due to the North American Free Trade Agreement. By conducting interviews with 15 residents of an indigenous settlement, San Juan Mixtepec, Oaxaca, this study aims to reveal the influence of migration experiences on indigenous people. In conclusion, 1) migration experiences make people more conscious on capitalism; 2) they become more aware of the goodness of their home culture; 3) people put more importance on mobile phones than other electric appliances in order to communicate with their family members working as migrants outside the locality.

## 1章 研究の概要

### 1-1 研究の背景と目的

土地が持つ特有の文化は人々の地域への帰属意識を高める。しかし外部の文化との接触の機会が増えたことにより、世界各地で文化の均質化が進んだ。本研究の研究対象であるメキシコ合衆国の先住民に関しても北米自由貿易協定(NAFTA)等をきっかけとして資本主義の影響を受け始めた。農業等の元々の生業では生活ができなくなった人々が職を求めて出稼ぎを行うことで、外部の文化との接触は増え、少しずつ彼らの文化は形骸化の一途をたどっているという指摘もある<sup>1)</sup>。本研究では、外部への出稼ぎの多い先住民集落での調査を通して、移民経験が彼らに与える影響を明らかにする。

### 1-2 研究の方法と構成【図1】

文献調査、フィールドワーク調査、現地ヒアリング調査を行った。構成は2章でメキシコ先住民移民に関する歴史の変遷や実態を把握し、3章でヒアリング結果を質問項目毎に見る。4章ではヒアリング結果から、出稼ぎ先を踏まえた各回答者の移民経験を見る。5章では3,4章より得られた重要な5つのテーマに着目して分析・考察し、6章で総合考察・結論とする

1章 研究の概要
2章 メキシコ先住民移民に関する歴史の変遷及び先住民集落の実態
3章 先住民集落と移民先の実態及び彼らの意識調査
4章 先住民集落と移民先をつなぐ住民の声
5章 住民の意識から見る移民行為と先住民集落の関係性
6章 総合考察・結論

【図1】論文構成

### 1-3 既往研究

メキシコ系移民に関しては社会学、文化人類学の分野にて多くの研究が存在する。特に本研究の対象地に関連する研究もあるが<sup>2)3)4)</sup>、本研究のように住民の意識調査をもとに分析を行い、移民と文化、資本主義の関係に関して分析されているものは他にない。

### 1-4 移民の定義

「通常の居住地以外の国に移動し、少なくとも12ヶ月間当該国に居住する人のこと」という定義が一般的であるが、国

際的に合意されている移民の定義は存在しない為、本研究ではメキシコ国内で一年以内の出稼ぎを行っていた者も含めて研究の対象とする。

## 2章 メキシコ先住民移民に関する歴史の変遷及び先住民集落の実態

### 2-1 章目的(省略)

### 2-2 方法

【表1】フィールドワーク調査の概要

対象地	オアハカ州フストラワカ地区 (サン・フアン・ミステペック周辺)
調査方法	フィールドワーク調査 (移民支援団体FIOBの活動に参加)
調査時期・頻度	2016年2月14日-3月13日、週5日程度

1)に示したフィールドワークの結果を用いた。

### 2-3 メキシコにおける移民に関する概要及び歴史の変遷

メキシコ人の米国での就労の歴史は19世紀にまで遡る。テキサス独立革命がきっかけでメキシコ領土であったテキサスは米国の領土となり、その後墨米戦争での敗戦によりメキシコは約52%の領土を米国に割譲した。その際にほとんどのメキシコ人が現地に留まる選択をした。

またアメリカの移民政策もメキシコ系移民と大きな関係がある。移民に関する様々な政策があるが、その多くが米国の農場がメキシコ人労働力に依存していたことを裏付けるものである。

メキシコ人移民は米国にて大変重宝された労働力であったが、同時に米国人から

オアハカ州内での研究対象地及びその周辺地域  
San Juan Mixtepec / サン・フアン・ミステペック



【図2】研究対象地地域概況

の差別の対象でもあり、多くの人権侵害が起きていた。特に先住民移民はその最たる例であった。そこで 1950 年代頃より現地で先住民移民による市民団体が組織されるようになる。そのような団体が現地で先住民グループの連合体を結成し、現在では FIOB という名で米国・メキシコの二国間で移民支援を行っている。

### 2-4 オアハカ州の先住民集落における文化・習慣

研究対象地が位置するオアハカ州はメキシコ全土で一番先住民言語の話者が多い州とされている。研究対象地であるサン・ファン・ミステペックはオアハカ州の西部のフストラウァカ地区内に位置する地域である。当地域では雇用機会が十分でない為に多くの住民が貧しい生活を強いられており、総人口約 7,600 人のうちの 83.2%が貧困層に該当し、45.5%が極度の貧困層に該当する。そのような状況によって家族を養うために多くの住民が外部に出稼ぎを行う。

### 2-5 章まとめ(省略)

## 3章 先住民集落と移民先の実態及び彼らの意識調査

### 3-1 章目的

本章では多くの住民が出稼ぎを行う先住民集落を対象地として集落の現状や移民に関して等の実態及びそれらに関する住民の意識を明らかにすることを目的とする。

### 3-2 調査概要【表2】

オアハカ州のサン・ファン・ミステペックの住民を中心に計 15 名にヒアリング調査を行った。以下、各回答者は a~o の記号で表記している。

【表2】ヒアリング調査の概要

対象地	オアハカ州フストラウァカ地区 (サン・ファン・ミステペック周辺)
調査方法	ヒアリング調査(30-50分)
調査時期	2016年11月20日-12月3日
調査対象者	・対象地(先住民集落)の住民 12名[a, b, c, d, e, i, j, k, l, m, n, o] ・FIOB主要メンバー3名[f, g, h]
質問項目	図2参照(全14項目)

質問項目には①移民行為、②集落の現状、③故郷の文化、④移民支援の 4 つのテーマがあり、全部で 14 項目から成る。各質問への回答はまず選択肢から回答を選び、それについてより詳しい理由を自由回答形式で聞き取った。

### 3-3 調査結果

【図3】に各質問の選択回答の結果を示す。

### 3-4 章まとめ

【図3】の選択回答の結果及び自由回答の結果より以下のことがわかった。

#### ①移民行為に関して(質問1~7)

・回答者のこれまでの経歴より移民先は米国(長距離)、オアハカ州外のメキシコ国内(中距離)、オアハカ州内(短距離)に分類する事が出来る。

・それぞれ移民先は様々だが、フロリダ州ネイブルズ(b,c,d)の事例のように家族・親戚で集まって同じ地域に移民をするようなケースもある。

・回答者の多くが出稼ぎを始めた当時故郷を出たくなかったと回答しており、その多くが「故郷に仕事が無かった為他に選択肢がなかった。」としている。

・回答者の多くが故郷に住みたいと回答しており、その多くが故郷の家族に関して言及している。

・回答者の多くが移民は必ずしも必要ではないと回答しており、その多くが「故郷でも貧しいながらも生活していける。」としている。

・多国籍企業の流入に関しては多くの回答者が賛成だとしているものの、ネガティブな意見も多く見られる。

・回答者の多くが移民前後でライフスタイルや資本主義に関して何かしらの変化があったと回答している。特に資本主義に関して「故郷の雇用状況でも貧しいながらも生活していけると思うようになった。」や「移民先では必要以上にお金が必要・重要だと考えていた。」のようにお金にあまり執着しなくなったというような意見が目立つ。

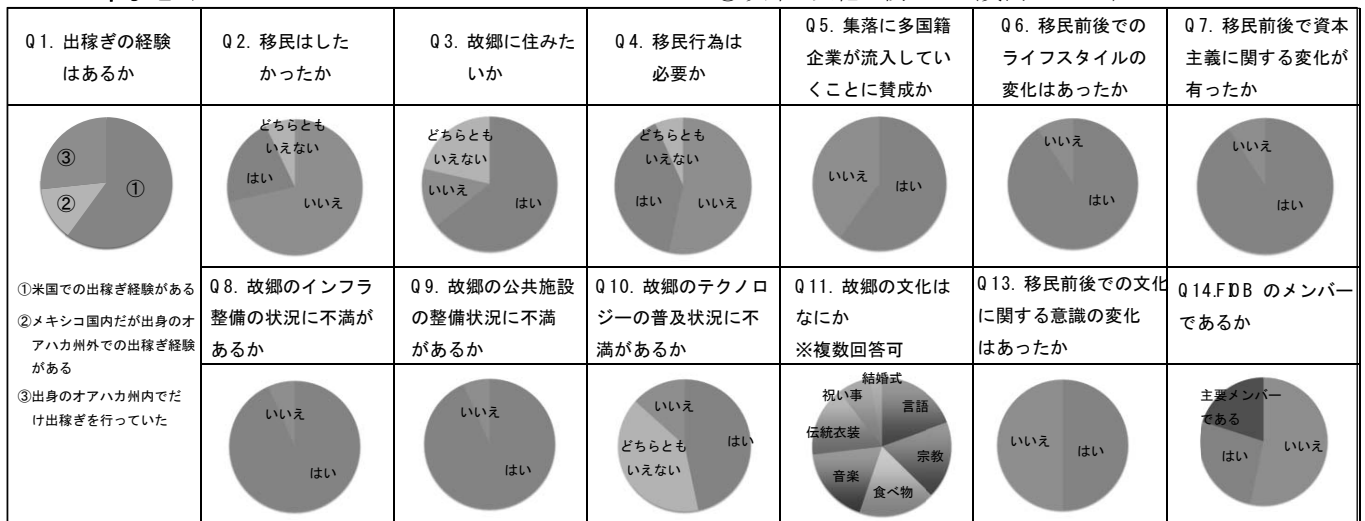
#### ②集落の現状に関して(質問8~10)

・回答者のほとんどがインフラ及び公共施設の整備状況に不満だと回答している。特に教育機関及び医療機関への言及が多く見られ、それらの理由として高齢化の進む故郷の将来に言及するような意見も見られた。

・回答者のほとんどがインフラ及び公共施設の整備状況には不満だと回答していたものの、携帯電話以外の電化製品やテクノロジーに関してはそれほど執着していなかった。

・「携帯電話の新しいアンテナ、電波が欲しい。」や「携帯電話は家族とコミュニケーションをとる為に必要」等、携帯電話に言及する意見が非常に多く見られた。これは外部への出稼ぎが多く、家族と離れ離れになることの多い土地柄に由来していると考えられる。

#### ③故郷の文化に関して(質問11~13)



※Q12「移民先で故郷の文化はどのように実践されていたか」については、選択回答とせず自由回答のみとしたため梗概では結果を省略する。

【図3】質問項目ごとの回答一覧

・住民は言語や宗教、伝統衣装、音楽等を故郷の文化として認識している。

・この集落にもともとある言語であるミステコ語は住民にとって未だに重要であるという意見が見られた。

・出稼ぎを行っていた間も伝統音楽であるチレナは住民にとって大事な役割を担っていたと考えられる。

・伝統衣装は故郷でも移民先でも基本的には年配者しか着用しない傾向にある。

④移民支援に関して（質問 14）

・回答者の多くが支援組織である FIOB のメンバーではないと回答しており、その多くが団体やその活動についてあまり知らないことをその理由としている。

## 4章 先住民集落と移民先をつなぐ住民の声

### 4-1 章目的

本章では、回答者毎のこれまでの経歴等を考慮しながらヒアリング調査の回答結果を見ていく。それにより各ヒアリング回答者の人物像や彼らが置かれている境遇、外部での出稼ぎが彼らにどのような影響を与えたのかを明らかにしていく。以降各言説には下線を引き、対応する回答内容を「回答者-質問番号-回答番号」として示した。

### 4-2 調査概要（3章と同様、【表 2】参照）

### 4-3 回答者の経歴と彼らを取り巻く環境に関する意識

出稼ぎを行った場所から、回答者 15 名は①「米国での出稼ぎ経験有り」、②「オアハカ州外メキシコ国内での出稼ぎ経験有り」、③「オアハカ州でだけ出稼ぎ経験有り」に分類された。ここでは各分類に該当する回答者 1 名ずつの事例を取り上げ、詳しく見ていく。出稼ぎ先と各回答を【図 4】に示す。

#### ①「米国での出稼ぎ経験有り」の事例（回答者 c）

回答者 c は 1996 年、当時彼女が 18 歳の時に親戚が集まって暮らす米国のフロリダ州ネイブルズに移り住んだ。現地で

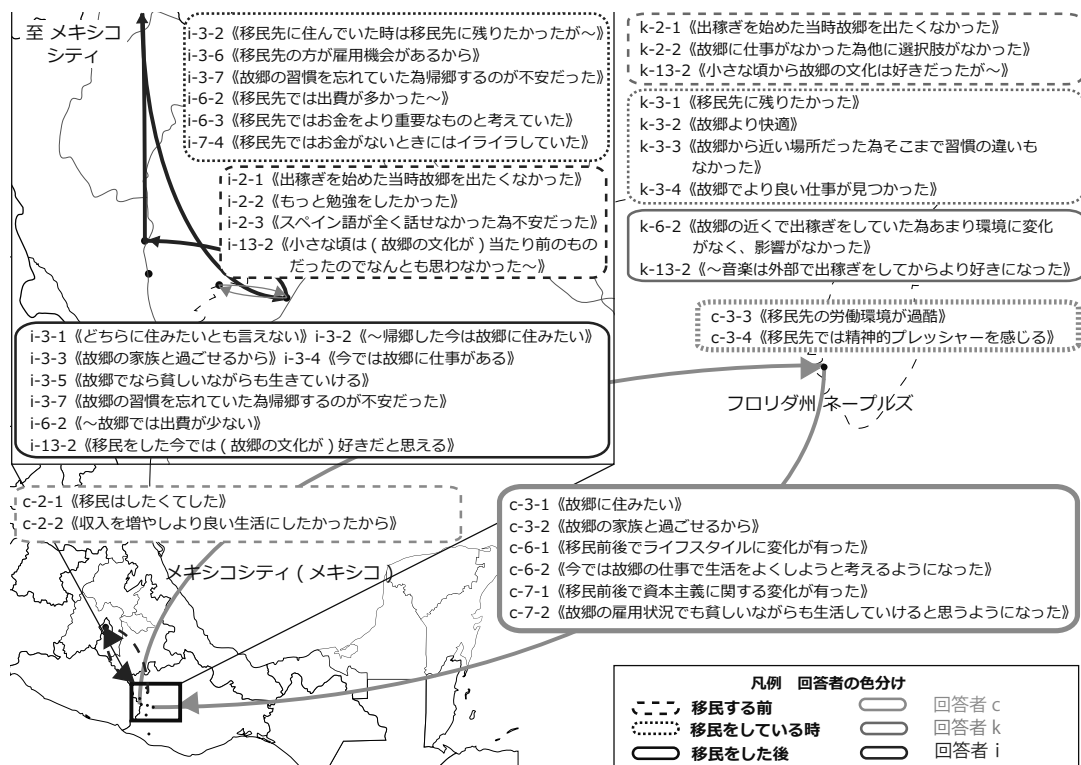
12 年間出稼ぎをしたあと 2008 年に帰郷。当時を振り返り、移民はしたくてした c-2-1 と語る。米国で出稼ぎを行えば故郷よりも良い生活ができると思っていた c-2-2 のが理由だ。過酷な労働環境 c-3-3 により現地では精神的プレッシャー c-3-4 が強く、家族とも離れた生活 c-3-2 になる為、彼女自身はもう米国に戻りたくなく故郷で生活を良くしていきたい c-3-1 と考えているようだ。また移民を通して c-6-1、c-7-1、故郷でも生活出来る c-7-2 と気づき、故郷で生活の質を良くしたい c-6-2 と考えるようになったと語る。

#### ②「オアハカ州外メキシコ国内での出稼ぎ経験有り」の事例（回答者 i）

回答者 i は 10 歳の時に家族と共に首都メキシコシティに移住した。約 30 年間現地で暮らしたあと一度近郊のトラヒアコに移り住み、その後現在まで故郷のサン・ファン・ミステペックで暮らしている。当時を振り返り首都へは行きたくなくなった i-2-1 と語る。理由として故郷でもっと勉強を続けたかった i-2-2 こと、またスペイン語がわからなかった為不安 i-2-3 だったことを挙げていた。しかしメキシコシティに移り住んだあとは故郷に仕事がありません i-3-6 ことを考えると現地に残りたかった i-3-1,2 と考えていたようだ。また、30 年間の生活を経て言葉等故郷の習慣を忘れてしまった為に故郷の生活に慣れることができるか不安 i-3-7 だったという。しかし今では故郷に仕事があり i-3-4、また家族と一緒に過ごせる i-3-3 という理由から故郷に住みたい i-3-1,2 と思うようになったという。

#### ③「オアハカ州でだけ出稼ぎ経験有り」の事例（回答者 k）

回答者 k はサン・ファン・ミステペックのロス・テホコテスという集落で生まれ、学校を卒業したあとに近郊のトラヒアコというまちで 8 年間働いた。近郊のまちに出稼ぎを始めた当時を振り返り、故郷を出たくなかった k-2-1 もの雇用機会がなかった為に仕方がなかった k-2-2 と話していた。しかし出稼ぎを始めてからは、故郷から近くそこまで文化や習慣の違いに困らなかった k-3-3 点、また現地の方が快適 k-3-2 だった



【図 4】出稼ぎの距離別に見る意識変化の事例

ことを理由として出稼ぎ先に残りたかった<sup>k-3-1</sup>といい、故郷により良い仕事が見つかった<sup>k-3-4</sup>為渋々帰ってきたという印象を受けた。

#### 4-4 特徴的な回答の組み合わせに関する考察

##### 出稼ぎに出た当時と現在での移民に対する意識の変化

###### 1) 「移民はしたくてした」×「故郷に住みたい」のパターン

このパターンに該当する回答者 c,e,f の回答に着目したところ「故郷との生活のギャップが彼らにとってネガティブな要素になっている」と「現地での生活を通して故郷でのメリットがより強調された」ことが明らかになった。

###### 2) 「出稼ぎを始めた当時故郷を出たくなかった」×「移民先に残りたかった」、「どちらに住みたいとも言えない」のパターン

このパターンに該当する回答者 d,i,k,l,o の回答に着目したところ主に「移民先にも家族がいる為」であることが明らかになった。

##### 「移民行為の必要性」と「多国籍企業の流入」の関係性

###### 1) 「移民行為は故郷に必要だ」×「多国籍企業が流入していくことに反対」のパターン

このパターンに該当する回答者 b,f,g,h の回答に着目したところ「故郷に雇用がないという状況以上に多国籍企業が故郷に持ち込むであろうデメリットをより問題視している」ことがわかった。

###### 2) 「移民は必ずしも必要ではない」×「多国籍企業が流入していくことに賛成」のパターン

このパターンに該当する回答者 b,f,g,h の回答に着目したところ「現状には満足しておらず、故郷に起こりうるデメリットよりも雇用を得る為に故郷の資本主義化を優先してしまうような傾向が見られる」ことがわかった。

#### 4-5 章まとめ

・少数ながらも出稼ぎを始めた当時「移民はしたくてした」と、現地の生活に希望を持って故郷を離れた回答者が居たが、彼らは移民を経験したあとに現地の出費の多さや労働環境の過酷さを理由にその全員が「故郷に住みたい」と語っている。そのような回答者からは「移民を経験したことで移民を必要だと思わなくなった」や「故郷でも貧しいながらも生活していける」というような回答も見られ、出稼ぎを始めた当時から比べると心境に変化が起きていることがわかった。

・「移民は必ずしも必要ではない」と回答している者の多くが「多国籍企業が流入していくことに賛成」していることがわかった。このことより「故郷でなら貧しいながらも生きていける」とする回答が見られるものの、故郷の雇用増え、生活がより良くなることを願う住民がいると考えられる。

・移民前後での意識の変化に関して「故郷の近くで出稼ぎをしていた為あまり環境に変化がなく、影響がなかった」ことを理由に変化がなかったという回答が見られた。このことより出稼ぎを行う距離の違いが変化の有無に影響を与えうると考えられる。

・「多国籍企業が流入していくことに反対」している回答者はその全員が現在「故郷に住みたい」と考えていることがわかった。多国籍企業に反対する主な理由も「住民が搾取されてしまう」や「安価な商品が流入することで住民が価格競争に勝てなくなり結果的に職を失う」、「農薬だらけの作物によって健康を害する」等が挙げられている。

・FIOB 主要メンバー全員が「多国籍企業が流入していくことに反対」しているのに対して、一般の FIOB メンバーは「多国籍企業が流入していくことに賛成」している。このことから FIOB 内の幹部とそれ以外で故郷の理想の在り方が共有さ

れていないと考えられる。

・4-4 で見られた特徴的な回答の組み合わせの 2 つのパターンはどちらも対立的な回答の組み合わせになっていることがわかった。

## 5章 住民の意識から見る移民行為と先住民集落の関係性

### 5-1 章目的

本章では、3, 4 章にて見られた特徴的な 5 つのテーマに関して考察を行っていく。

### 5-2 方法

特徴的な 3 つのテーマについて、ヒアリング調査の回答や、その組み合わせパターンに着目し、さらに 2 章から得られた実態を踏まえて分析した。

### 5-3 家族の存在意義から見る住民にとっての携帯電話の位置づけ

#### 1) 携帯電話が故郷と移民先の家族を繋ぐ

当テーマに関連する回答及び実態調査に着目して分析を行った結果、住民にとって携帯電話が大変重要であり、「携帯電話が故郷と移民先の家族を繋ぐ」役割が似合うと考察できる。

### 5-4 公共施設の機能の向上に伴う集落のポテンシャル

#### 1) 教育の改善、市民団体の支援により地域の地産地消は強化され、住民は移民をしない権利を得る

当テーマに関連する回答及び実態調査に着目して分析を行った結果、「教育の改善、市民団体の支援により地域の地産地消は強化され、住民は移民をしない権利を得る」と考察できる。

### 5-5 行政の汚職と市民団体の支援活動の関係性

#### 1) 市民組織の活動は行政の汚職に対抗し、地域を成長させる

当テーマに関連する回答及び実態調査に着目して分析を行った結果「行政からの助成金の利用」と「その他外部団体からの助成金の利用」を通して市民組織の活動は行政の汚職に対抗し、地域を成長させる役割を担うと考察できる。

## 6章 本研究の結論

本研究を通して以下のことがわかった。

- ・外部での出稼ぎの経験は多くの先住民移民に資本的な意識の変化を生じさせる。
- ・徐々に文化の形骸化は起きているが、外部での出稼ぎを通じて故郷の文化の良さに気付くケースがある。
- ・外部への出稼ぎが多く行われている地域では、外部で離れて暮らす家族とコミュニケーションをとる為に他の電化製品よりも携帯電話を重要視する傾向がある。

### 《注釈》

小井土彰宏(1997)「国際移民システムの形成と送り出し社会への影響」『国際移動論』三嶺書房

ii Jonathan Fox,G Rivera Salgado(2004)「Indigenous Mexican Migrants in the United States」

iii 山本匡史(2007)「オアハカ先住民移民によるバイナショナル組織の形成と政治戦略」天理大学学报 58(2)

iv G Rivera Salgado(1999)「Binational Organizations of Mexican Migrants in the United States」